

名作再読、拾い読み(12)

『神の小さな土地』 ("God's Little Acre")

小澤 文彦

アースキン・コールドウェル(Erskine Preston Caldwell, 1903-1987)はアメリカの小説家で、ジョージア州ホワイト・オウクで生まれました。彼の父は長老派教会の牧師でほぼ半年ごとに教会を移動したため、それに伴って彼もフロリダ、ヴァージニア、テネシーなど南部諸州を転々と移動します。大学に入学するまでの教育は主として母親から受け、サウス・キャロライナ州のアースキン大学へ入学しましたが、すぐに放浪の旅に出、戻ってからはヴァージニア大学やペンシルヴェニア大学で講義を受けます。様々な職業を経験した後、『私生児』(1930)を発表し作家として認められました。その後、『タバコ・ロード』(1932)と『神の小さな土地』(1933)を発表しますが、この二つの作品は彼の代表作と見なされています。『タバコ・ロード』は脚色されてブロードウェイで上演されると7年半ものロングランを記録し、『神の小さな土地』は内容が卑猥すぎるとして告発されましたが、そのようなこともあってか1400万部も売れるベストセラーとなりました。彼の作品は他に、『遍歴者』(1935)、『七月の騒動』(1940)、『悲劇の大地』(1944)、『神の確かな手』(1947)などがあり、どの作品においても南部のプア・ホワイトと呼ばれる白人貧農の悲惨な生活があるのまに、ユーモラスなタッチで描かれています。

彼の作品の中で、『神の小さな土地』の内容は悲劇的ですが、語り口が滑稽で楽しく読め、是非ともお薦めしたい小説です。

ジョージア州の農夫タイ・タイは、自分の土地のうち1エーカーを「神の小さな土地」に定め、そこから収穫されたものは全て教会に捧げていましたが、15年前から続けている金塊探しに支障があると、この1エーカーの場所を次々に移動していました。金の鉱脈がある筈だと信じているタイ・タイは、次男のバックや三男のショーにも手伝わせて穴掘りを続けていました。

折角の農地で農作業を放棄しているので、冬が近づくと食糧不足になり、町で裕福な生活をしている長男のジム・レスリーに借金の申し込みをしに行きます。ジム・レスリーは実家とは縁を切りたがっていました。タイ・タイと一緒に連れて来た弟バックの美しい妻グリゼルダに心を奪われ、お金を貸すついでに彼女を誘惑しようとしています。長女ロザモンドの夫ウィルは紡績工場に勤いていましたが、ストライキを指導して休業中でした。穴掘りを頼まれて手伝いに来ますが、タイ・タイとは気が合っても、バックとショーはウィルに嫌がらせをします。工場街の杜宅に戻ったウィルは、仲間と共に閉鎖された工場へ強行突破することを

決意します。計画実行の前夜、ウィルは妻のロザモンドや義妹のダーリング・ジル、そしてジルとの結婚を望んでいるプルートの目の前で、グリゼルダの服をずたずたに引き裂き、その後隣室で愛し合います。ロザモンドたちはそれを止めもしないし非難もしません。ウィルが皆のいる部屋に戻ってきた時、ダーリング・ジルはもの狂おしい感情に襲われてウィルのもとに駆け寄り、足元にひれ伏します。翌日、ウィルは仲間たちと一緒に工場になだれこんで動力のスイッチを入れましたが、工場の護衛に銃で撃たれて死んでしまいます。葬儀の後、悲痛な気持ちでタイ・タイの農場に戻ってきたグリゼルダを、車で押しつけてきたジム・レスリーが力づくで連れ去ろうとしたため、バックは腹を立てて彼を銃で撃ち殺しました。平和な家庭を望んでいたタイ・タイは、自分の家の中で起こった流血の惨事を嘆き悲しみ、"Blood on my land" (土地が血で汚された) という言葉を繰り返すばかりでした。

タイ・タイは次のような言葉を口にします。

"There was a mean trick played on us somewhere. God put us in the bodies of animals and tried to make us act like people. That was the beginning of trouble." (「わしらは、どこかでわるいたくらみにひっかかったんだ。神様はわしらを、動物の軀においれになって、人間のような行動をさせようとなさった。それがそもそもまちがいはじまりだった。」)

コールドウェルは、貧しさのため物欲と性欲がむき出しになった人間の姿を、同情的に描いています。発表当時物議をかもした描写も、現代では然程問題になりません。グリゼルダは、率直にものを言うタイ・タイとウィルを"real men" (真の男)と呼び、タイ・タイは本当の生き方というのは、頭ではなく自分の内部にあるものを感じる事が大切だと言います。途方もない夢を抱き、その夢の実現に向かって行動するけれども、結果は空しい、そういう男達に対する哀歌とも受け取れる作品です。

参考文献

1. Erskine Caldwell, "God's little acre" (Farrar, Straus and Cudahy, 1962)
2. コールドウェル著、龍口直太郎訳『神の小さな土地』(新潮社、1955)

おざわ ふみひこ (係・情報サービス課)